



問 「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」⑩

答 肥満の漢方治療について、お話を続けます。今回は、表の「気逆・気鬱を伴う場合」の三番目、加味逍遙散についてお話しします。

加味逍遙散は、和剤局方という書物の中の「婦人の様々な疾患の治療法」で紹介されています。構成生薬は、柴胡、山梔子、薄荷、白朮、茯苓、牡丹皮、当帰、芍薬、生姜、甘草です。「貧血気味でからだがだるく、からだが火照って、全身に疼くような痛みがあり、頭が重く、目がかすんで、頬が赤くなり、口が渴き、のどが乾燥し、微熱があり、寝汗が出て、食欲が落ちて、すぐに横になりたがる。または、血の気が多く、興奮気味になり、月経が不順で、お腹が張って痛み、寒くなったり熱くなったりする人を治す。また、未婚の女性で、

貧血気味で、痰が多く、夕方になると発熱して、からだ痩せ細っている人を治す」と和剤局方の中に記載されています。

図は、私の漢方の師匠が描かれた加味逍遙散の腹証図です。みぞおちのあたりにむくみがあり、おへその横から下にかけてと下腹の血の流れをとこのえます。柴胡・山梔子・薄荷が、胸部の右横と真ん中の上の熱をさします。加味逍遙散を服用することにより、女性特有の不快感がとれ、からだがしまってきます。

肥満の頻用処方

固太りタイプ

ぼうふうつうしょうさん だいさい こうとう
防風通聖散、大柴胡湯、
だいじょうきとう
大承気湯

水太りタイプ

ぼういおうぎとう えっぴかじゆつとう
防己黄耆湯、越婢加朮湯、
くみびんろうとう
九味檳榔湯

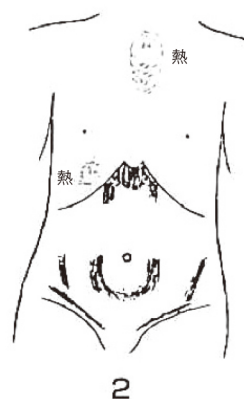
瘀血を伴う場合

とうかくじょうきとう けいしぶくりょうがん
桃核承気湯、桂枝茯苓丸

気逆・気鬱を伴う場合

さいこかりゅうこつぽれいとう とうかくじょうきとう
柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、
かみしょうようさん よくかんざん
加味逍遙散、抑肝散、
はんげこうぼくとう
半夏厚朴湯

加味逍遙散



図

(日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」)

皆さまから漢方に関する質問を募集しています。はがきまたは電子メールで住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢を添えて、最終ページに記載の住所またはEメール:information@ideshita-clinic.jpのいでしたクリニックとさえもあ編集係まで送付ください。